



Racing Specialities

保存版

VECTOR X

ベクターX

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



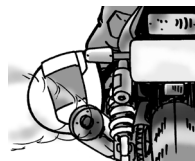
▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

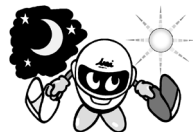
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

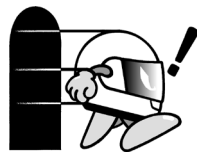
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままでは走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調整するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を中性タイプの食器洗い洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

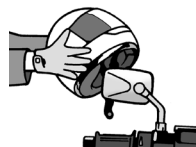
▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁巻を傷付け、それをきっかけに縁巻が剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護している縁巻が無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧る類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

▼エアロフラップについて

当ヘルメットに取り付けられている「エアロフラップ」は固定式です。ヘルメットを持ち歩く際に手で持ったり、掴んで強く引っばるとヘルメットから脱落するおそれがあります。



▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの食器洗い洗剤を水で薄めてご使用ください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

▼ヘルメットのお手入れ用洗剤について

頑固な油污れ用の【アルカリ性洗剤・弱アルカリ性洗剤】、バス・トイレ用の【酸性洗剤】はヘルメットのお手入れに絶対に使用しないでください。使用した場合ヘルメットを破損して、その機能を損なうおそれがあります。

pH (水素イオン指数)	3以下	3以上～6未満	6以上～8未満	8以上～11未満	11以上
液性	酸性	弱酸性	中性	弱アルカリ性	アルカリ性
ヘルメットへの使用	×	×	○	×	×

ヘルメットに、中性以外の洗剤は
ご使用頂けません。



ヘルメットのシールドやベンチレーションダクト、ホルダー等の樹脂成形部品のお手入れには【中性タイプの食器洗い洗剤】を、ヘルメットの内装のお手入れには【中性タイプの洗濯洗剤】を推奨しています。しかし、たとえ液性が中性であっても、使用する状況や条件によって樹脂成形部品を破損させるおそれがありますので、十分ご注意ください。



樹脂成形部品に中性洗剤の原液を直接掛けたり、洗剤を溶かした水の中に長時間漬け込んだり、洗浄後の洗剤成分の除去が不十分だった場合、洗剤成分が樹脂成形部品に浸透して亀裂や割れを生じさせる原因となります。

▼pHコントロール：抗菌消臭高機能生地について

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

ベクターXの特長

①DFD (デュアル フロー ダクト)

外気をヘルメット内部に導き、同時に排気を行います。
そして、ダクト開口部を塞ぐことで風切り音を軽減。

②DFS (デュアル フロー スポイラー)

外気をヘルメット内部に導き、同時に排気を行います。
そして、ワンタッチ操作で3ヶ所の吸排気口を同時開閉
できます。

③サイドエキゾースト

ヘルメットの内部にこもる空気を排出します。

④VAS-Vロック

【RX-7X】で初採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムであるVAS-Vロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

⑤マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの機能を併せ持つマウスシャッターを採用。

⑥ブローベンチレーション

ブローシャッターから取り入れられた外気は、インナーダクトによってヘルメット内部へと導かれます。

⑦FCSシステムパッド

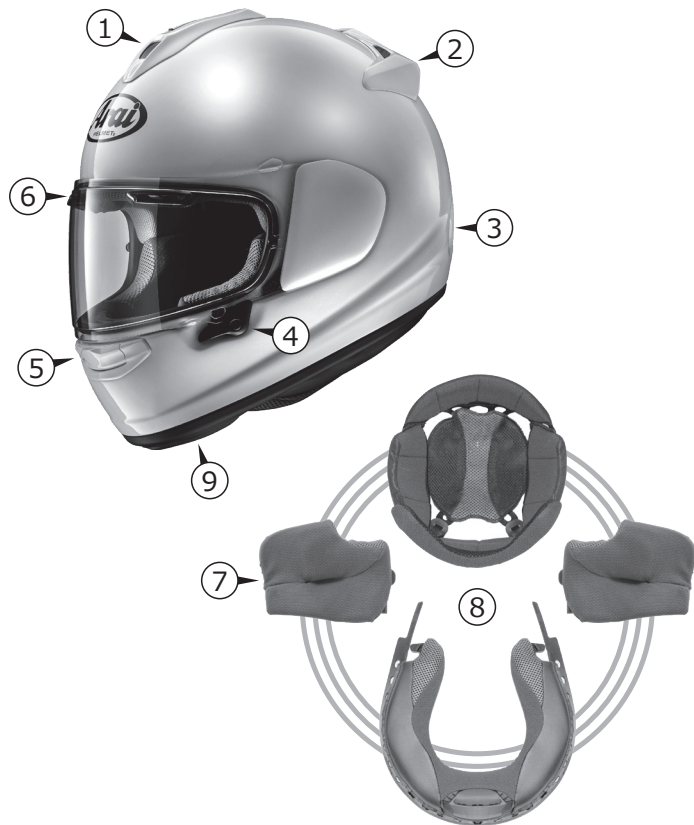
FCS構造を取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

⑧pHコントロール : 抗菌消臭高機能生地

通常、生地に着した汗はアルカリ性となり、匂いの原因となる雑菌が生じます。当ヘルメットの内装には、付着した汗をアルカリ性から肌に優しい弱酸性に変化させる抗菌消臭高機能生地が採用されています。

⑨固定式エアロフラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。



目 次

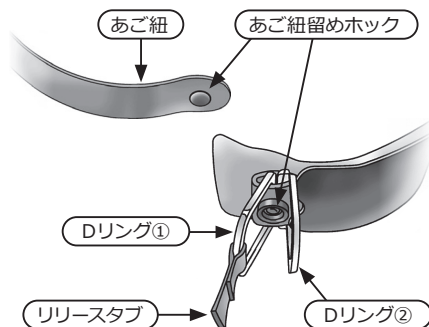
A	あご紐の正しい締め方	12 ~ 13 ページ
B	デミストポジションについて	14 ページ
C	VAS-Vシールドの開閉	15 ページ
D	VAS-Vシールドの着脱	18 ~ 21 ページ
E	シールドベースの着脱と調整	22 ~ 23 ページ
F	ストリングの着脱	24 ページ
G	ブローシャッターの操作	26 ページ
H	マウスシャッターの操作	26 ページ
I	DFD・DFSの操作	27 ページ
J	ディフレクターの着脱	27 ページ
K	システムパッドの着脱	28 ~ 30 ページ
L	パッドカバーの着脱	32 ~ 33 ページ
M	システム内装の着脱	34 ~ 36 ページ
N	システムネックの着脱	38 ~ 39 ページ
O	ヘルメットのお手入れ	40 ~ 41 ページ
P	オプションパーツリスト	42 ページ
Q	ヘルメットのサイズ調整	43 ページ
	巻末付録	44 ~ 45 ページ

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。

当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

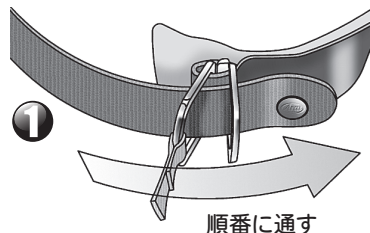
あご紐の各部名称



①二つのDリングに通す

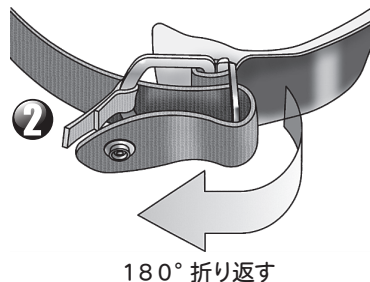
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。



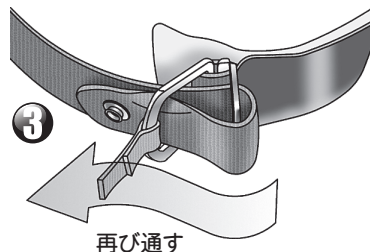
②あご紐を180°折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。

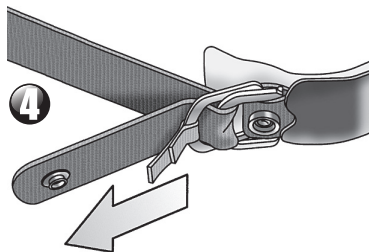


③Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

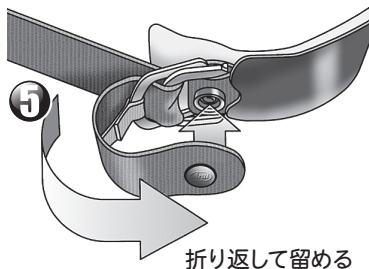


④あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



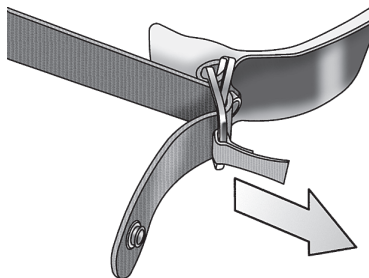
⑤余った先端部を留める

【あご紐留めホック】で余ったあご紐の先端を留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへのあご紐の付着を防止できます。

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



折り返して留める



リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。

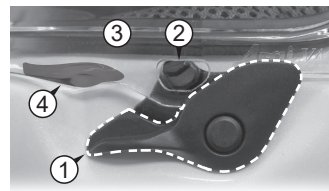


VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー（点線部）
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



Image

B デミストポジションについて

シールドロックからデミストポジションへ

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態を「デミストポジション」と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



ココを押し上げる



少し開く

押す

デミストポジションからシールドロックへ

[シールドの指かけ]の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



更に下げる



Image

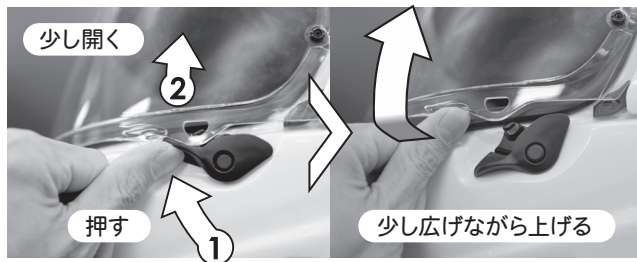
シールドロック完了

C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

〔Vロックレバー〕 前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

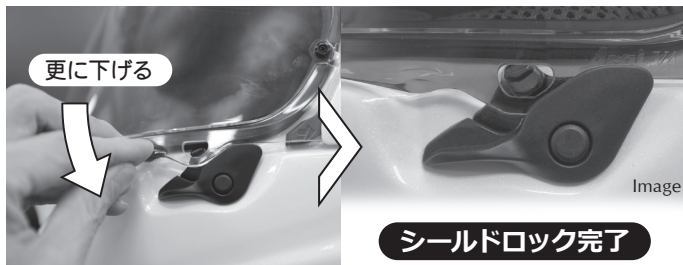
次に、〔シールドの指かけ〕 の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

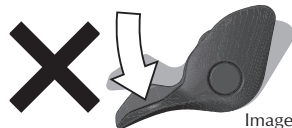
次に、〔シールドの指かけ〕 の上に指をかけて**デミストポジションから更に**シールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

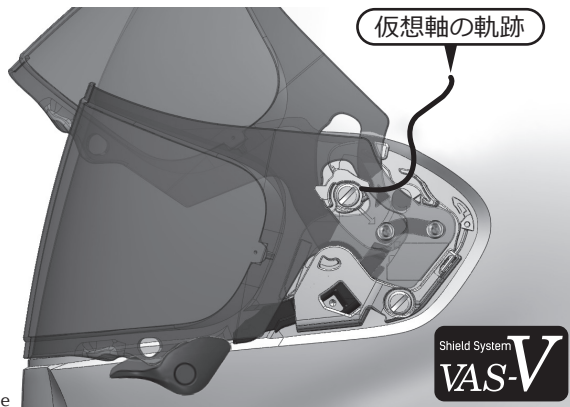


Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。



VAS-Vシールドの仕組み

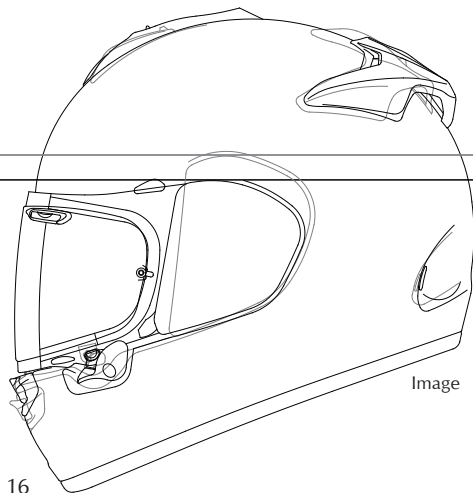
VAS-Vシールドは、シールドの回転軸を可変させることで固定された回転軸とは異なる、ホルダー範囲を飛び越す仮想軸を創り出し、ホルダー及びシールドベースのコンパクト化を実現しました。



Image

QUANTUM-J

VECTOR-X



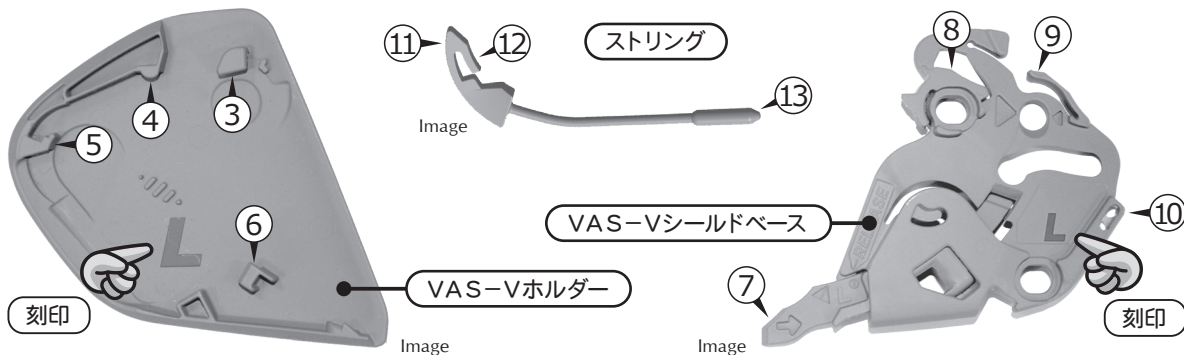
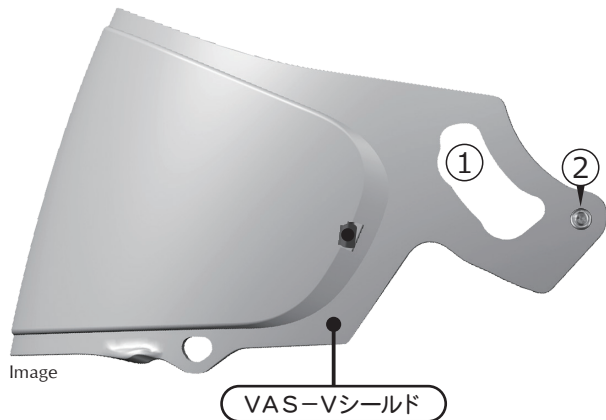
Image

衝撃をかわすために大切な、丸くてなめらかな曲率ゾーンを拡大することで、Araiが提唱する安全性のこだわりをカタチにしました。それが「VAS」です。



VAS-V構成パーツの各部名称

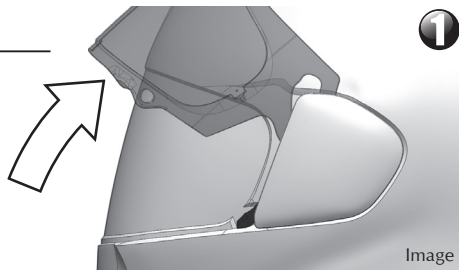
VAS-Vシールド	1	摺動穴 (物が滑って動く穴)
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー (L・左側)	3	上部フック (前)
	4	上部フック (後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
VAS-V シールドベース (L・左側)	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け (前)
	9	上部フック受け (後)
	10	ストリング用マウント
ストリング	11	フック
	12	返し
	13	アンカー



D VAS-Vシールドの着脱

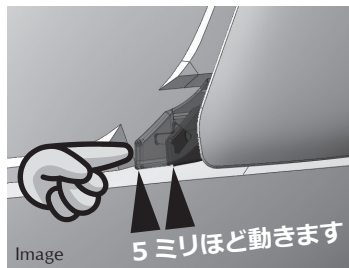
シールドの外し方

①シールドを開いて全開にします。※図ではVロックレバーを省略しています。

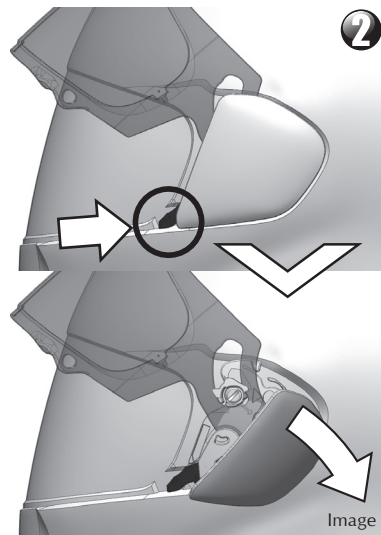


②ホルダーの前方に見える【VAS-Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



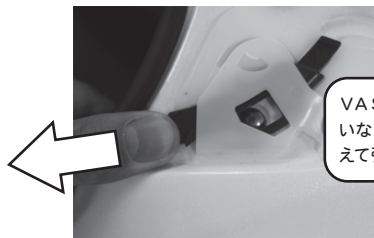
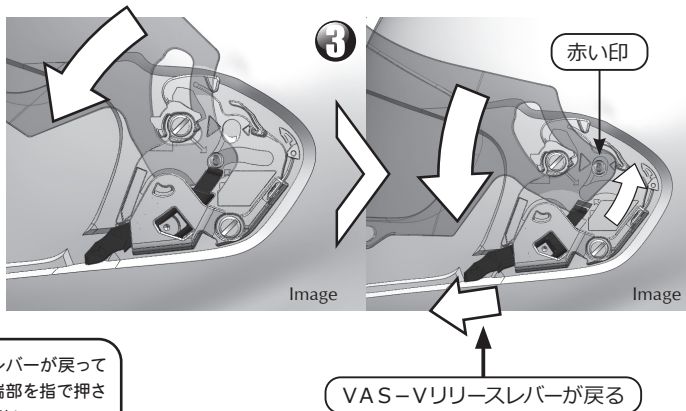
ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。



③ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げると、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。

シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

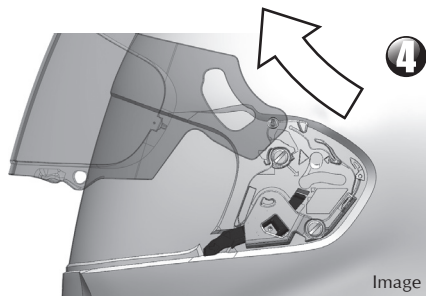
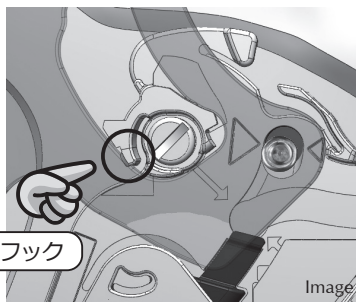


VAS-Vリリースレバーが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。



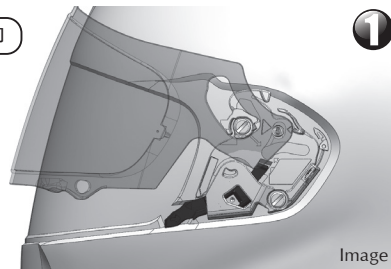
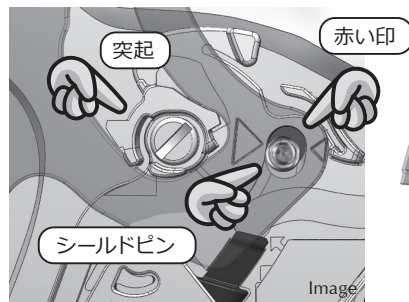
④ この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくことでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

反対側も同様の手順で取り外しを行ってください。

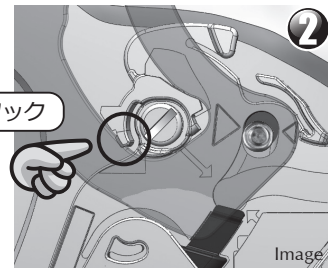
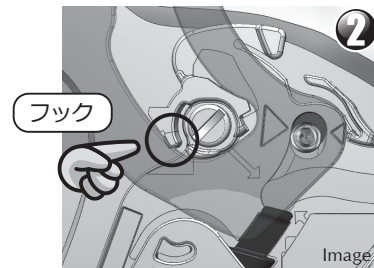


シールドの付け方

①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。

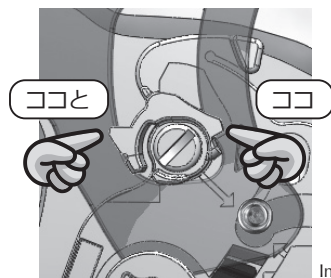


②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。

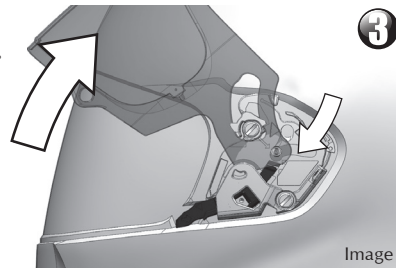


③シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）に入り込みます。

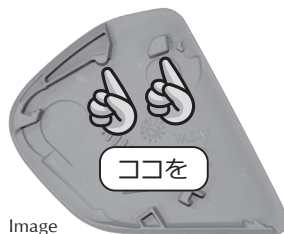
※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



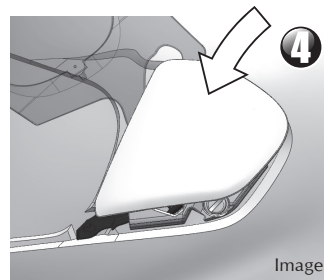
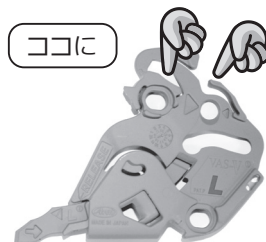
ベースの指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認して、シールドを上げます。



④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。



Image

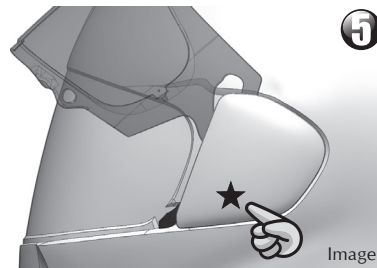


Image

⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。



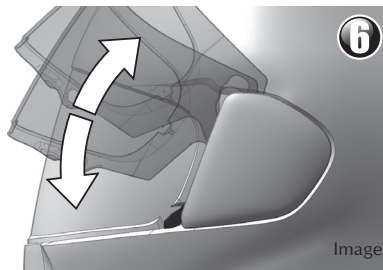
Image



Image

⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。

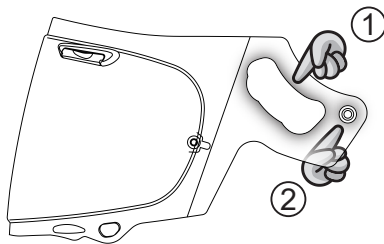
シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってから、ヘルメットをご使用ください。



Image

シールドの動きがスムーズでない時は

シールドの動きがスムーズでない時は、一旦シールドを取り外してシールドの摺動穴周辺①と、内側に突き出たシールドピンの軸②に潤滑シリコンを少量塗布し、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かし、潤滑シリコンを十分馴染ませてください。

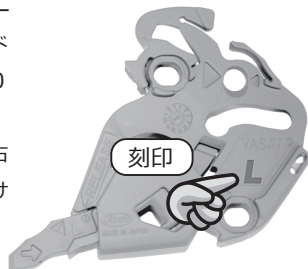


潤滑シリコン

E シールドベースの着脱と調整

シールドベースを外す際は、左右のホルダーとシールドを外してシールドベースを固定する上下2本のネジを10円玉などの硬貨で回して外します。

シールドベースを取り付ける際は、シールドベースの左右を刻印（L・左側 / R・右側）で確認してネジで取り付けてください。



シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着具合）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時には、次のページでご案内する「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」を行なってください。



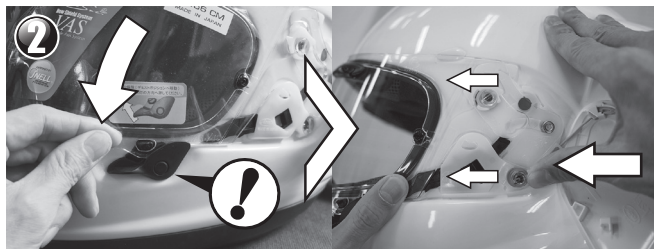
シールドベース調整によるフィッティングの最適化

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS-Vリリースレバーをリセット（元の位置に戻す）させるため、シールドを一旦シールドベースから外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少しだけ緩めます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



②シールド側の指かけに指をかけ、カチッ!と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押しってください。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



F スtringの着脱

ホルダー側のフックの外し方

Stringのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。



Image

ホルダー側のフックの付け方

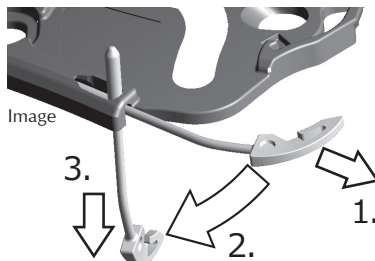
Stringのフックを、ホルダーのマウントに奥まで差し込みます。



Image

シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからStringを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け90度折るように曲げるとシールドベースから外れます。

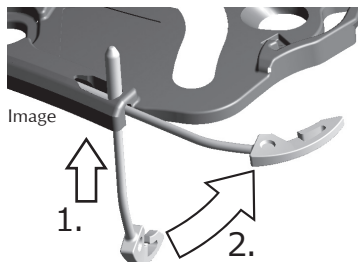


シールドベースを外さないで、Stringのアンカーは外せません。



シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にStringのアンカーを裏から差し込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。



Stringを付けずにヘルメットをご使用になると、シールドの着脱の際、ホルダーを床や地面に落とすおそれがあります。



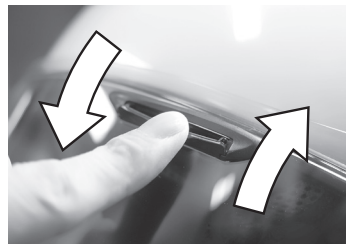


Racing Specialities

G ブローシャッターの操作

シャッターフィンの中央に指をかけて引き下げると開きます。
閉じる時は、シャッターフィンを止まる位置まで押し上げます。

雨の日は、シャッターを
閉じてください。



H マウスシャッターの操作

①シャッター半開

【フリーフローシステムモード】

シャッターを1段階下げると【フリーフローシステムモード】となり、導入した外気に口元にこもる空気をのせて排気ポートより排出します。



②シャッター全開【デフロストモード】

シャッターを更に下げて全開にすると【デフロストモード】となります。このモードでは、導入した外気をシールド内面に吹き付けて曇りを軽減します。



フリーフローシステムモードは、マウスシャッターから導かれた下降気流に口元にこもる空気をのせて、ヘルメット下部に設けられた排気ポートから排出を行います。



I DFD・DFSの操作

DFD (デュアルフローダクト) は前方ダクトの名称です。DFS (デュアルフロースポイラー) は後方ダクトの名称です。

前後ダクト共に、ダクト背面の突起を後方にスライドさせるとシャッターが開きます。前方にスライドさせるとシャッターは閉じます。



J ディフレクターの着脱

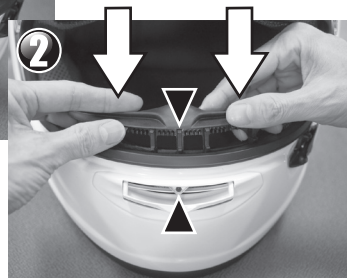
①ディフレクターの外し方

ディフレクター本体の端をしっかりと掴んで引き上げると、ディフレクターを取り外すことができます。



②ディフレクターの付け方

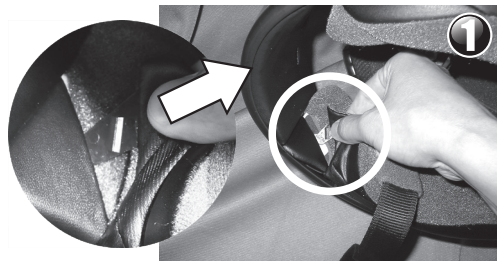
ディフレクター中央の「フック」と、開いたマウスシャッターから見える「ネジの頭」が一直線になるように位置を合わせます。窓ゴムとセンターパッドとの隙間に、ディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。



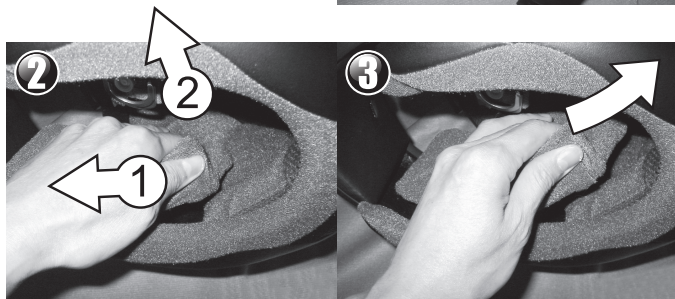
K システムパッドの着脱

システムパッドの取り外し

① 先ず、システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】の根元を摘んで、差し込まれているタブを矢印の方向に引き抜きます。



② システムパッドを掴み、センターパッドに押し付けながら（下図Aを参照）システムパッドの後方を持ち上げます。（下図Bを参照）



③ システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。（下図Cを参照）



Image



A.



B.



C.

Image

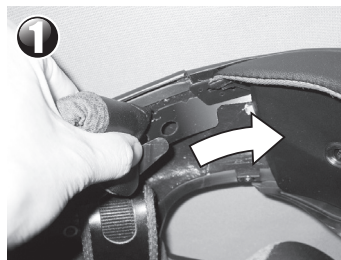
システムパッドの取り付け

システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

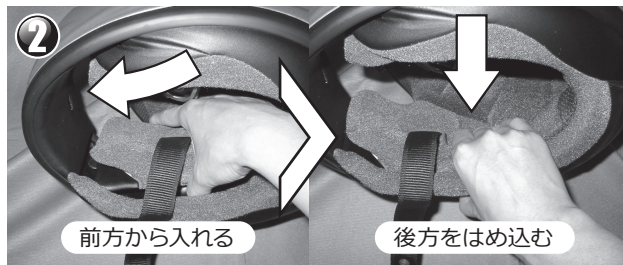
①ネックパッドの杵先端が外れて飛び出している場合は、帽体とセンターパッドの隙間に差し込みます。

②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥まで差し込み、システムパッドの後方をヘルメット側へ押し付けます。

③あご紐を引っばって弛みを取り除きます。そして、システムネックの【タブ】をシステムパッド前方のポケットに奥まで差し込みます。



杵先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。



タブの取り付けが不十分だと、走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。

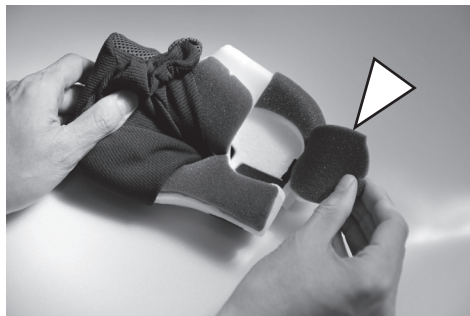
システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。



システムパッドのインカムホールについて

耳が収まる部分に貼られているウレタン（遮音性ウレタン）には丸い切れ込みが入っています。これを剥がして取り除くと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。

直径5cm未満の薄型タイプヘルメット
スピーカーをご利用ください。



調節パッドによるシステムパッドのサイズ調節

システムパッドには、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システムパッドを約5mm薄くすることができます。

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終わったら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。



Racing Specialities

L パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①パッド後部より先にカバーを外し、その後カバー全体を外します。

②パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。



パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。



パッドカバーの取り付け準備

パッド本体とカバーの左右を確認します。パッド本体とカバーには、左（LEFT） 右（RIGHT） の表示ラベルが付けられています。



パッド本体の表示



カバーの表示

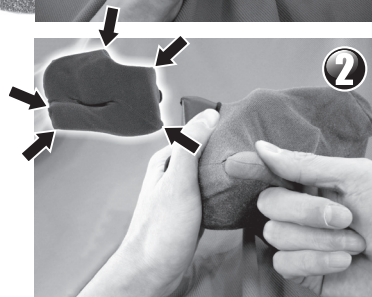


パッドカバーの取り付け

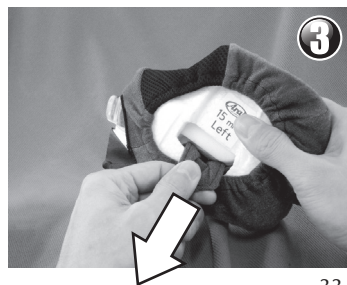
パッド本体とカバーの左右が確認できたら、①のように、前方からカバーをかぶせます。この時、カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調整を行い、位置が整ったら後方部分にもカバーをかぶせます。



②カバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドの頬にあたる面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。



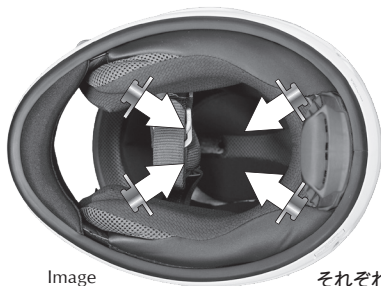
③パッドの中央の穴にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みに収めます。



M システム内装の着脱

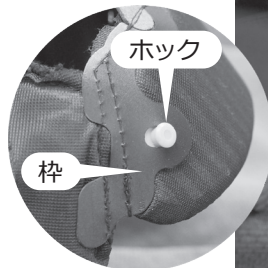
システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠(保持プレート)を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



Image

それぞれのホックを引っばる向き



②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

取り出したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



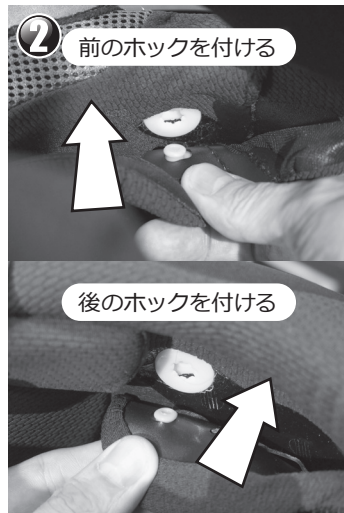
システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。



②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入ると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約4mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。



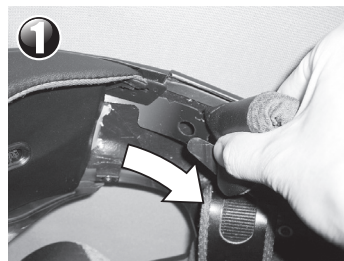


Racing Specialities

N システムネックの着脱

システムネックの取り外し

①システムネックの【タブ】をシステムパッドのポケットから抜き取り、左右のシステムパッドをヘルメットから取り外してください。そして、センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【杵先端】を、左右とも抜き取ります。



②システムネック中央の成形部品付近をしっかり掴みます。



ヘルメットの縁巻に沿って左、または右向きに3~4 cmほどスライドさせます。



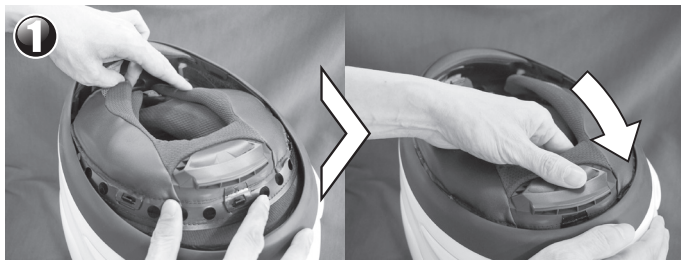
スライド後はフックの固定が解除されていますので、システムネックを引き抜くことができます。



システムネックを外す際は、システムネックの杵ごとしっかり持ってください。尚、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

①システムネック両端をすばめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②ネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で挟むようにして取り付けます。

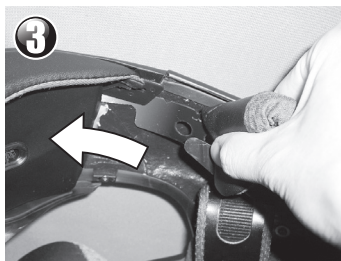


フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っぱってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付け、システムネックのタブをシステムパッドのポケットに差し込めば作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。



システムネックはヘルメットサイズによってサイズが異なります。パーツリストをご参照ください。



○ ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。その後、水を含ませた布で洗剤成分をよく取り除き、自然乾燥させてください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

シールドのお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは水で薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールドの素材は、酸性やアルカリ性の洗剤を使用したり、アルコール成分を含むクリーナー類で拭いたり、シンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用するとシールドの素材が侵されシールドにヒビ割れが生じます。そして、万一の衝撃時に、そこをきっかけに破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で虫を拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

ヘルメット本体の洗い方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いを行います。システム内装・システムネック等の枠付きの内装は、枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

P オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS - V MVシールド	クリアー	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120 (クリアー)		011079
VAS - V ダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS - V ポスト付シールド	クリアー	011054
	スモーク	011055
VAS - V ティアオフシールド	クリアー (5枚入り)	011065
	スモーク (3枚入り)	011067
VAS - V PSプロシェードシステム		011070
VAS - V PSノンバイザーシールド		011071
VAS - V PSサンバイザー (スモーク)		011073
VAS - V PSピボットカバー (左右セット)		111138
VAS - Vホルダー	グラスホワイト	025429
	グラスブラック	025430
	フラットブラック	025432
	ライブレッド	025439
	リッチグレー	025440
VAS - Vシールドベース		021066
スーパーアドシスネジセット		112511

パーツ名		部品番号
XC-EPシステムパッド	12mm	055842
	15mm	055843
	20mm	055844
	25mm	055845
RX-7X EPシステム内装	Ⅱ-10mm	075682
	Ⅱ-7mm	075683
	Ⅲ-10mm	075686
	Ⅲ-7mm	075687
	Ⅳ-7mm	075691
RX-7X EP システムネック	(54) ~ (59-60) cm	075704
	大 (61-62) cm	075705
ESチンカバーV		075711
IPディフレクター		082391

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

Q ヘルメットのサイズ調整

システム内装による頭回りの調整

【54と55 - 56】そして【57 - 58と59 - 60未満】には、それぞれ共通の内装枠が使用され、下表のような頭回りの調整が行えます。内装枠サイズは数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）で表記されていますが、この数字が異なると内装枠を取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	内装枠サイズ・パッド厚 (mm)		
54	Ⅱ-7	Ⅱ-10	
55 - 56		Ⅱ-7	Ⅱ-10
57 - 58	Ⅲ-7	Ⅲ-10	
59 - 60未満		Ⅲ-7	Ⅲ-10
61 - 62未満		Ⅳ-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

システムパッドによる頬部の調整

全サイズのパッドが選べますが、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりするとヘルメットのかぶり心地を損なう原因となります。

ヘルメットサイズ (cm)	システムパッドの厚み (mm)		
54	20	25	
55 - 56・57 - 58	15	20	25
59 - 60未満・61 - 62未満	12	15	20
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

ヘルメット内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われていますが、しかし天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談もアライヘルメット品質管理課で受け付けています

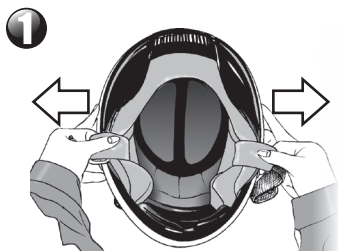
コットン生地への変更は着脱式内装にのみ行われます。なおコットン内装の色は標準内装とは異なりますので予めご了承ください



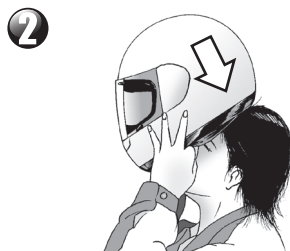
アライヘルメット品質管理課 ☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

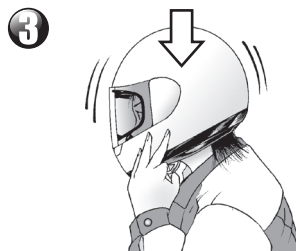
巻末付録：FCSパッドを採用したヘルメットのかぶり方・シールドカラーの選び方



1
FCSパッドはあご下まで回りこんでいるため間口が若干狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がります。※ヘルメットを脱ぐ際も、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



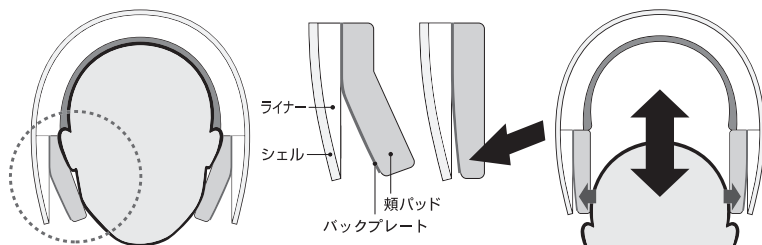
2
ヘルメットは頭の真上からではなく、顔を上げて額からかぶります。こうすれば前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



3
天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

FCSとは

FCS構造を取り入れたシステムパッド（頬パッド）は、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。



FCS Facial Contour System

Image



晴天

晴れの日、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が十分に明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドをご使用ください。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

夕方や夜にはクリアーシールドをご使用ください。走行が夜間にも及ぶ場合は日没前に安全な場所で停車し、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、バイク便ライダーのお客様にはセミスモークシールドがお勧めです。



株式会社 アライヘルメット

☎ 330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎ 048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎ 048 - 645 - 3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）